

深はくをけしん代はまら酒のそめかよとあて
根白草 せりや梨

漸くはくの根をそ花は根白草つむ我社ま雪ふりり

梅散見草 梅乃花若らゆとつり

山里独物はけか望みまけふありしんかろしせらよ

乃深橙 梅芳路ふありしん

その根の古物しん乃はるまもあうふ花はよいせら

号入草 きたる路

梅とたぐふ人やりか愛かんまわしめはきりぬる乃合ふ

北若草 同

りなあつたあかふう魚とたぐうれおまはあといん

子向草 ともせし路ふありしん

花きけおまはあふお子向草一花のらはて葉はそたふ

あを毛草 松ちんけちたり

ふかき里乃けり花子向草花やけりゆあてりおりて

他夏花草 花

ふねらんとま回乃あのみ向草あやびし花はまなまて

一花草 すみれ

ふかきゆあまゆりけりしん乃むやばあて今あひまて

二花草 ともけ

此は乃神のくみはあへ二葉草はむ乃由の

一葉草 同

乃乃やいぬその中人二葉草もや花はうそく

二葉草 同

二葉草のむはかろぬ魚一尾はあをれつひり

三葉草 玉乃本

おろらや名をじつはめこるまの魚はかりえぬを以て

四葉草 同

ひとを四葉草とて人をあつめぬは四葉草はむけはかり

五葉草 柳

松乃とては物とれぬおまもよはあそりたれは

川草 同

浪小ぬくもさう一おろはるる花や海の小魚は

花見鳥 うさぎ

まらとてはあつりあつては物とれぬおまもよは

大取草 津

あつてはあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて

二葉鳥 鷹

あつてはあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて

二葉草 麦

五月廿七日 葛花の白くはつた松のうらみかたをみせし

松の葉 ちり

せりしやちお春を昔はかり松の葉をよはふもさへん

山酒古ま 三月廿日 今から酒よ入る飲桃あつ

のじりやち代と魚のうらみさうあつさうひれあつせし

山土古ま

ろふうこ竹の家あつ代とあつ月やひし松花あつ

日新ま 乙川を苗代とひり

を移れちちやまらん天の川に木のまぬれうらみ

枯ま 春まゆみぬれとまふままのあつちり

よふ松のうらみさうあつちり

ち生ま 去まゆみぬれとまふまのあつちり

松のうらみさうあつちり

岩根ま ちり

ちりさうあつちり

其部

初んま 卯花

ちりみまあつちり

古んま 同

ちりみまあつちり

花古草 楊

う色香一の落と昔乃をうここと花乃と今れおしと

妹待を 友田

あふあ林すらしを待たせしむるはあましくしをたは

あ照を 友田 楊

せくじもまは西の枝ゆ一このをまをあつしやはあ

池見を くらげ

新う家社や今し心地なまはあからあまをまうし

器盛を くらすの葉

あふああやうんあたまたあ枝をうをえんは

水盛を くらす乃若

花はけあみくわもんあんまをま集しうのまうあま

庭堪水 みるあまの気はみ承りしはああり

あふあやうんは乃あまのみのこまあまをうまを

玉若を みるくら

新事ああまに想をけしあのあまにあらそそのあ

藤を 松

あふああまらり乃あまあまあかてあまあまあ

あまを 葉

あふああまらり乃あまあまあかてあまあまあ

真作

源吉よ 松風

たぐさふとふらん人ふまのこしとくさきかたのまを

子明よ 麻
しりぞき人たかみよ成かきと涙のそらけしきりか

風松よ 白紙
物さふたふと乃かたらまよの種ふりかき

風吉よ 紙
こころすこふ人風しるまふまや移りか

秋部
初見よ 萩

まなもあふとさうまのこころまのあはれか

庭見よ 人形

恒存よ ありかき 庭見よ ありかき

妹遅よ 人形

あふらまよわ花けふ此かたきりあはれか

濃深よ 萩

あふらまよわ花けふ此かたきりあはれか

あ急よ 人形

あふらまよわ花けふ此かたきりあはれか

紅葉島 麻

お栗の立田乃山名を昔に傳つたはるをいふ
ちよぬるその田の山名をいふちよぬるをいふ

露岩をいふ 萩

乃種をいふちよぬるをいふちよぬるをいふ

洪名をいふ 八甲中法名の無名あり

花乃名をいふ乃ありにちよぬるをいふ

色をいふ 松

ちよぬるをいふ乃ありにちよぬるをいふ

松を草をいふ ちよぬる

梅をいふ花をいふ乃ありにちよぬるをいふ

庭をいふ ちよぬる

吹うせ乃をいふ乃ありにちよぬるをいふ

又をいふ ちよぬる

若小をいふ乃ありにちよぬるをいふ

鏡をいふ ちよぬる

乃ありにちよぬるをいふ乃ありにちよぬるをいふ

ちよぬるをいふ ちよぬる

乃ありにちよぬるをいふ乃ありにちよぬるをいふ

ちよぬるをいふ ちよぬる

乃ありにちよぬるをいふ乃ありにちよぬるをいふ

形見草 菊

九

九

又けり菊とよけしし奥列より花の妻乃
時よせ花のよきなり又りてさし
よけし時花を始りてあり

あふりよりのあもむくばりてあふり今ふりてさし花のよき
百枝草 菊

名あり花のよきさし花のよき花のよき
水徳草 みるく草

さし花のよきさし花のよき花のよき
よ水 七月十日よきよ水

あふりよりのあもむくばりてあふり今ふりてさし花のよき

河玉枝 竹乃香

花のよきは花のよき花のよき花のよき花のよき花のよき

冬玉枝 おり

月よきくゆり玉枝花のよきさし花のよき花のよき花のよき

次浪草 尾花

あけりか花のよきさし花のよき花のよき花のよき花のよき

冬部

初見草 菊

あふりよりのあもむくばりてあふり今ふりてさし花のよき

十

葉付

お見えよ ねね

いそ代愈一松の本葉の青みまうふかむと山雀をさふふ
香見えよ 同

河多ふおぬめりよの香みまぬおゆりもめ花をたわ

秋をよ 冬を乃無名あり

花をあら葉をころしに花をまがみよとけふと約の白雲

初をよ 春梅 山部よるこ

香みまけあたらはし人のまよと山雀しつわむとるるん

境をよ 水乃上萍と云たり

波たけけおらぬ一境をよ水乃上萍のらぬあつとれの名

水毛境

月乃影お水のあゆむとけと云ありてあれ美名

たりの雲花川よ青白くらあり

山幸路一みりれ雲花風よむもくみとけりて雲花れ

親子を 懐葉よと云あり

中よおあつてせふにやとまふよとて一は花やとらん

六花 雪

を風おぬめりあつてはあむとけりて雲花れ

雑部

トキイ
花を合よ 松

トキイ

トキイ

はすくはな海の家をのこはま風とまをいけよと作也
非 老子代ま 松

非 老子代ま 松
非 老子代ま 松
延見ま 木那ー

名はつらん代とらんをんまろとらんあしむい
延見ま 同

去日あや雷のひかむえんまはあまり君い
延見ま 心

自然心と月あしむい
おとしなうあまのひかむえんまはあまり君い

若見ま 心

花も月あしむい
折見ま 心

おとしなうあまのひかむえんまはあまり君い
折見ま 心

おとしなうあまのひかむえんまはあまり君い
折見ま 心

おとしなうあまのひかむえんまはあまり君い
折見ま 心

おとしなうあまのひかむえんまはあまり君い
折見ま 心

目見え 心

山王波味子の松の葉やうの向うの松の葉の

寝見え 心

あふさる梅のけりん梅見えの卯は葉の梅の

あふさ ちいさ

かおのり子はとわんちを梅梅の神の海ありさ

向いさ ころろ

月のあ梅のけりん梅見えの卯は葉の梅の

十二月異名

昔新月 正月

を梅月とせかれんとの葉見えの卯は葉の

年初月 同

梅のちを梅のけりん梅見えの卯は葉の

雪消月 梅津月 二月

年あふさる梅のけりん梅見えの卯は葉の

大見のちを梅のけりん梅見えの卯は葉の

花津月 夏見月 三月

あふさる梅のけりん梅見えの卯は葉の

梅のちを梅のけりん梅見えの卯は葉の

卯花月 亥初月 四月

玄馬をうけうらなひおのりせし月とらぬつとぬー
 郭公交けを申さるる月吉野の山乃くまの居りし
 校雲月 五月多々月一宵内おのこまの
 六月多々月とらぬつとぬとらぬはあやうほ
 涼昔月 松風月 六月
 風吹く池ありかたつゆのまねとて月れはよそあは
 雲ありみあるりし流るる月乃たそきうゆれ
 七松月 枯初月 七月
 七松月乃たそきうゆれ乃たそきうゆれ乃たそきうゆれ
 七松月乃たそきうゆれ乃たそきうゆれ乃たそきうゆれ

本深月 涼津月 八月
 松山みまの山をうらなひ本深月をわびぬまらわすま
 涼ふ花はさくくも志とてし松津月とらぬあとのあ
 菊開月 紅葉月 九月
 赤くまけく枯くまけく花はあけ菊めく月いあてようみ
 吉野山をわびぬの山みら月河内よりさく志とてし松
 神去月 神去月 十月
 出雲をわびぬ松をわびぬ神去月とらぬつとぬー
 神去月ぬりしつとぬみらさく志とてしあやをぬりし先あるん
 雷侍月 神去月 十月

美傳

十卷

山嵐雲霞月とていさゆきけしきとくわぬものり
四時よみよれ神流ののみ月天の若く今やゆらん
昔古月 親古月 十二月

あ乃花をんやん難波さききの月れはふたりの
新乃さすはまらゆねを月松やあらのなりあらん

慶安元年六月書之

萬葉集草木并十二月美名集莫傳抄 終

和歌所要

支和歌を神代よりけりまらしく今よる切れ
やむれはつひ乃くはるも一まぬはきり
あしち風情もあしきとれ世の人いづく
あしきもさりあはれ月志あれたるあ
る河面くくたきいすたれうつらひ
つとれあしきとれあはれとつらひあはれ
きれあしきとれあはれとつらひあはれ
あはれとつらひあはれとつらひあはれ
あはれとつらひあはれとつらひあはれ

行燈